



Newsletter

奈良女子大学附属学校園

No.1 2005/05/25

「奈良女子大学附属学校園Newsletter」の創刊にあたって

附属学校部長 水上戴子(生活環境学部教授)

附属学校部が2004年4月に発足して約1年余りが経過しました。幼稚園、小学校、中等教育学校の3附属学校園の新年度がスタートしたばかりですが、附属学校園のこれまでの歩みと今後の課題についてご紹介したいと思います。

附属学校園は1911年に本学の前身である奈良女子高等師範学校の附属として設置されました。その後、1949年に奈良女子大学が発足し、1952年に奈良女子大学文学部内に教育学科が設置されて以来、長年にわたって附属学校園は文学部附属として存在してきました。そして2004年4月に大学が国立大学法人に移行すると同時に、大学と一層連携した教育、研究活動を推進していくために大学全体の附属として改組されることになり、附属学校部が新設されたのです。附属学校園の運用は全学組織となり、中等教育学校と小学校に歴代校長として初めて、それぞれ生活環境学部と理学部教授が就任しました。また、附属学校園の様々な事柄については、全学の各部局から選出された委員から成る附属学校運営委員会で、全学的な見地から審議、推進する体制が整えられました。このような体制は、附属学校部の役割である大学と附属学校園の連携、各附属学校園相互の理解と連携を図ることによりかなり効果があったと考えていますが、まだまだ今後の進展が望まれる状況です。

本学の附属学校園はこれまで伝統的な特色ある教育・実践と研究成果を全国に広く発信してきましたが、今後も幼児・初等・中等教育が直面している諸問題に対し、先導的な実践・研究を推進する使命を

担っています。このため、既に2003年12月に設置された奈良女子大学教育システム研究開発センターとの連携により、本学と附属学校園との教育・研究活動が進められており、これを推進していくことが期待されます。これまで大学との連携としては、附属学校園は教育実習、参観の受け入れ、附属の教諭による教職科目担当などを通じて教員養成への貢献が極めて大きく、また、文学部を中心とした関連学問領域の研究フィールドとしても大学の研究・教育に貢献をしてきました。一方、大学教員に多大な協力を得て、3年前にスタートしたアカデミックガイダンス(AG)をはじめとする様々な取組みがなされてきましたが、今年度は新たな取組みが幾つか予定されています。



この「附属学校園Newsletter」は、附属学校部が開設されたことに伴い、附属学校園間の連携を深めると共に、その活動内容について広く各方面の皆様方に紹介するために、年2回の予定で発刊することになりました。附属学校園のニュースは本学のホームページからもご覧いただけますが、これを機に、附属学校園の活動に関して広くご理解いただき、皆様方の温かいご支援とご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

各附属学校園での新しい生活がスタート ～入園式・入学式の日～



幼稚園
(入園式の様子)



小学校
(6年生のお姉さんと一緒に入場)



中等教育学校
(全員がグラウンドに集合)

校園長座談会「大学附属化元年を振り返って」

ゴールデンウィークの1日、3附属学校園長にお集まりいただき、「大学附属化元年を振り返って」というテーマで、座談会を開いた。

出席者：中島道男幼稚園長・野口哲子小学校長・植野洋志中等教育学校長（司会：中道貞子）

司会：附属の教師として、文学部附属から大学附属になったことを先ず実感したのは、入学式の校長挨拶に「タンパク質」が登場したことでした。

はじめに、校長としての感想からお話をお願いします。

植野：附属によって対象となる子ども達の年代層が違います。タンパク質の話ができるのは中等教育学校だからでしょうね。

野口：小学校では1～6年生の成長差が大きく、校長挨拶での内容や言葉使いに苦労しています。

中島：園児を集中させるのがとても難しい。幼稚園の先生は、ちゃんと子ども達を集中させられるんですよ。声の大きさじゃないですね。

司会：法人化、大学附属化で変わったことは何ですか。

中島：附属のあり方についての考えが変わったのは、「在り方懇」以来でしょうか。そのあたりから、大学、附属ともに少しずつ変わってきたように思います。

野口：文科省から、非教員養成系大学附属学校園の存在意義を問われたことが大きいと思います。

植野：法人化や附属学校の存在意義は？といった波が襲ってくると、「附属の本来あるべき姿は？」と、お互いに波をかぶりながらやっていくことになります。

大学と附属をつなぐ役割をしているのが校長です。学校運営にあまり出しゃばりたくないという気持ちもあるけれど、皆さんの意見を聴きつつ、大学の意見を反映していかなくてはいけない。うまく波をかけ合いましょう、そういう雰囲気をつくりたいものです。

司会：これからの附属と大学のあり方について、もう少しご意見をお願いします。

植野：今まで、附属そのものを大学教育の一環と位置付けるとらえ方が不足していたと思いますね。

私としては、教科の壁をなくしたいと思っています。そうすることで連鎖反应的なものが出てきて、明治以来の教育を現代化していけると思います。これは非教員養成系大学でしかできないことです。

中島：教科の壁をなくすというのは、どういうことですか？

植野：生活環境学部は、学部が境界領域そのもの。私が実際やっているのはバイオサイエンスの最先端です。家庭科の先生が、生物の先生よりバイオを扱っているわけですが、高校現場では認知されていない。相変わらず家庭科は調理や被服といったことでやっています。

野口：附小では、総合学習を重視し、境界領域の教育は充実していますよ。

また、4月に「子ども科学研究発表会」があり、自由研究で理科を選んだ児童が成果を発表しましたが、各分野の大学の先生から質問やアドバイスをい



ただき、児童も教師も喜んでいきます。附属中等に進学した卒業生も発表に参加してくれ、児童達の刺激になりました。

中島：附属と附属の「あいだ」もまだまだ取り組みが必要ですね。幼稚園と小学校では、学習発表会を合同にしました。共通のテーマを決めて交流しています。

野口：非教員養成系大学とはいえ、教職科目への附属の貢献は大きいですね。中等程認識されていませんが、附小もかなり貢献しています。附小の教員14名中9名が大学の教職科目を担当しています。附小での教育実習を希望する学生も急増しています。

教職は男女格差がなく、女性にとって良い職業です。教職に就いている卒業生は長く仕事を続けており、教職免許取得は女子大生にとって大変有益だと思えます。

中島：幼稚園も増えていますよ。去年は、たしか全学部から教育実習生がきました。

植野：奈良女の大学と附属は、このような形で交流がある、持ちつ持たれつのある関係があるということ認識してほしいものです。

学生は資格取得指向が根強い。その中で教職免許は大きなウェイトを占めている。もっと奈良女の伝統を謳っても良いですね。

中島：大学と附属との「あいだ」ということでいえば、附属は、従来から、文学部の心理学やスポーツ分野で活用されていました。大学附属になったことだし、他学部にもぜひ使ってほしいと思います。

幼稚園のころは、虫が大好きです。理科離れなどからめて、小学校のもっと前から実践していったらいいのではないのでしょうか。食育ももっと小さい頃から必要でしょう。

植野：小さいときは自然に興味を持っています。大きくなると科目で区切ってしまい、小さいときの興味がしぼんで、何も見えなくなっている。教科科目の壁を落とし、生活に密着したサイエンスにしたいものです。奈良女版の教科書をつくったらどうでしょうね。

（数々のアイデアが出され、お願いしていた時間を大幅にオーバーしての座談会となりました。）

附属学校園と大学のこれから ～附属学校園合同研修会～

2004年度末が押し迫った3月4日、附属学校園の合同研修会が、附属小学校を会場にして開催された。

研修会の目的は、奈良女子大学附属学校園「基本構想」(案)について、共通理解と認識を深めることにあった。当日は、大学附属化に際して、附属学校園の位置づけや改組に向け、終始先導的な役割を務めてきて下さった文学部 西村拓生助教授を講師に招いて行われた。

水上附属学校部長のご挨拶の後、西村先生は、

「附属学校園と大学のこれからについて」

- - ようやく枠組みが整った今、何を考えるか?」を、レジュメに沿ってお話され、私たち附属学校園の教員に問いかけられた。

「基本構想」案作成の経緯

・大学サイドの視点が強く出ているが、附属側から

の視点が弱い。この整った枠組みに「魂を入れる」取り組みと実践を期待したい。

「外圧」対応ではなく、「私たちに本当に大切なことは何か?」を考え合うことが大事である。

・目の前にいる子どもに、きちんと向き合うこと。「つながり」を考え、縦横のアーティキュレーションの再分節化という課題に取り組んでいきたい。附属学校園と大学における「貢献」ということは、私たちにとって切実で大切な課題である。

「基本構想」作成を、各校園が大切にしていることを「語り直す」契機としてほしい。ことばが現実を作り出す!

「基本構想」は、私たちにとって、大切なものは何かを考えていく「道具」である。

(文責 中谷内)

3附属学校園で取り組んだPTA・近附連行事

2004年度は、奈良女子大学附属学校園が、「近畿国立大学附属学校連盟・PTA実践活動協議会」の当番校であり、5月20日(木)、なら100年会館・三井ガーデンホテルを会場として開催した。前年度には3附属学校園保護者の本部役員・実行委員の方々を中心に、運営面・テーマ設定・協議資料作成などの基盤作りがなされた。開催当日も力強いスタッフとしてご活躍いただき、本年度役員・委員との連携・分担作業により実施された。

総会、講演会後には実践活動協議会開催。「ふれあう NARA 今」をメインテーマに、幼・小・中高・養の分科会で3附属学校園が独自性を発揮した提案をし、テーブルディスカッションで活発な話し合いがなされた。

さらに、翌年2月開催のPTA合同研修会に向けての第1回実行委員会が9月に開かれた。研修会運営に関し、シンプルかつあらゆる面での充実を目標に検討を重ねた。ホテル利用が多かった大会会場を当番校の施設に移し、企画・運営面で手作り開催、従来より半額以下の参加費を実現した。当初から大変な手間がかかる事は予想されたが、全員一丸となって取り組みが進められた。テーマは「親の教育力」子育て・親育ち～教えること・育つこと～とした。

1部・2部の研修会をもち、2部の研修会では、中等教育学校器楽部による演奏会も加わり、心と和むひと時であった。浜田寿美男教授による講演「ありのままを生きる」も大変好評であった。講演後の分散会では、「6・6式討議」という討論方式を取り入れた有意義で活発な討議が行われた。当日は、2月の寒い雨の日となったが、3附属学校園PTA・育友会の熱い思いが伝わるとともに、3附属が連携を深めるよい機会となった。

(文責 前田)



2004年度 トピックス

< 幼稚園 > 保健教育充実を図る

2004年度に新しく養護教諭が着任したことに伴って、保健に関する教育や行事の充実に力を入れてきた。

まず保健教育として、子ども向けに掲示板を設けたり、保護者に「ほけんだより」を発行するなどして、啓発を図った。子どもには、折にふれて保健に関する指導を行ったり、保健室に不安な様子でやってくる子どもにじっくり話を聞くなど、細やかな対応を心がけてきた。子どもにとっても、保健室がより安定できる場所になったようだ。

また、園児や未就園児の保護者を対象として、講習会・講演会を開催した。「救急法講習会」では、日本赤十字社の指導員を迎えて、幼児の救急応急処置に関する知識を学ぶことができた。「子どもの病気に関する講演会」では、子どもがかかりやすい病気の対処法について、園医の先生に話を伺うことができた。参加人数はやや少なかったが、参加者には子どもの病気に関する適切な知識が得られたと好評だった。今後も引き続き保護者教育のための様々な行事を計画し、より多くの保護者に啓蒙を図りたいと考えている。

< 小学校 > 子どもに"洋式トイレ"を！

資金調達のためにバザーを開催

～「お父さん」たちは、模擬店をオープン～

3月13日（日曜日）午前10時～午後3時

附属小学校育友会は、体育館でバザーを開催した。校庭の通路沿いでは、PTCCの「お父さん」方が中心となって模擬店を開いた。どちらも大盛況で、日曜日の日を親子で楽しんだ。売り上げ金額は、



両方で「約90万円」に上ったとの報告があった。その浄財は、子どもに「洋式トイレ」をプレゼントするために使われる計画だ。現代の子どもの中には、「和式」では用が足せない子が多くなっている現実を見かねて、この催しが実施の運びとなった。

< 中等教育学校 > 中高一貫教育研究大会開催

当初、第4回中高一貫教育研究大会は、11月に新潟県村上中等教育学校で開催の予定であった。しかし、10月に起きた新潟県中越地震のために中止となり、急遽、2月25日・26日、本校で開催することになった。

「中高一貫教育の充実を目指して」をメインテーマに、1日目には、8つの公開授業と研究協議、研究発表、ワークショップ、講演があった。2日目には、新しい企画として、従来実施されていた学校形態別分科会から、5つのテーマ別分科会を開催した。「中高一貫教育の教育課程」「中高一貫教育の探究活動」「学校マネジメント」「中高一貫教育校の創設と課題」「連携型中高一貫校の実践と課題」いずれの分科会も充実した議論がなされた。



午後は、文科省初中局教育改革室 水野晴央室長補佐による講演の後、「生徒のこぼれから見えてくること～転換期における中等教育をめぐる対話」と題するシンポジウムを開催した。コーディネーターに奈良女子大学 西村拓生助教授、コメンテーターに立命館大学 春日井敏之教授を迎え、「こぼれ」という新しい切り口からのシンポジウムは好評裡に終了した。

大会参加者は550名に及び、中高一貫教育を推し進めようとする風を感じる活気あふれる大会であった。

2005年度の主な行事

< 幼稚園 >

4/12 入園式
5/23 潮干狩り
6/28 プール遊び開始
7/17・18 園内キャンプ
10/8 運動会
11/3 若草山親子遠足
11/17 親子で作ろう
12/1,2,5,6 入園調査
1月下旬～2月
クラス別子ども会(生活発表会)
3/15 修了式



< 小学校 >

4/11 入学式
4/29 春の運動会
6/10 学習研究集会
6/20 プール開き
7/19～21 臨海合宿
10/15 秋の大運動会
12/1 音楽会
12/7～14 歩走練習
2/16・17 学習研究発表会
2/22～24 スキー合宿(4年生)
3/10 卒業式(第95回目)

< 中等教育学校 >

4/9 入学式
5/13・14 1年一泊行事(淡路島)
6/6～10 5年修学旅行(北海道)
6/29～7/15 グローバルクラスルーム(南ア)
7/9 オープンスクール
9/17・18 第61回学園祭
10/5 附小体験授業
11/2 体育大会
2/7～10 3年スキー行事(黒姫)
2/24頃 公開研究会
3/1 卒業式

奈良女子大学附属学校園 Newsletter 01
2005年5月発行
奈良女子大学附属学校部
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
TEL.0742-20-3938
Web <http://www.nara-wu.ac.jp/fuzoku/>